

令和 3 年 6 月 3 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H00985

研究課題名(和文) 新たなマクロ計量モデルの構築と大規模データを用いた経済予測への応用

研究課題名(英文) Building New Macroeconometric Models with Applications to Economic Forecasting Using Big Data

研究代表者

渡部 敏明 (WATANABE, Toshiaki)

一橋大学・経済研究所・教授

研究者番号：90254135

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,680,000円

研究成果の概要(和文)：VARモデルやDSGEモデルの改良、資産価格のボラティリティ変動のモデル化、資産価格のマクロニュースに対する反応、大規模データを用いた構造VARモデルや分散の構造変化の計量理論など、多岐に渡って研究成果が得られた。また、VARモデルの係数と誤差分散をすべて時変にすることでマクロ変数の予測精度が高まることや、新たに構築した資産価格のボラティリティ変動を表すモデルは、ボラティリティの予測、Value-at-Risk、ポートフォリオ選択に有用であることを明らかにした。これらの研究成果は19本の査読付き学術誌に掲載され、学会等で112回の報告を行った。さらに、3年間毎年国際ワークショップを開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、マクロ計量分析で用いられるVARモデルや構造マクロモデル、計量ファイナンスで用いられる確率的ボラティリティ変動モデルの改良とそれらの応用を行い、新たな知見を得た。それらを国内外の学会や査読付き学術誌で発信したことは学術的に意義がある。また改良したモデルのいくつかは、マクロ変数や資産価格のボラティリティの予測、Value-at-Riskおよびポートフォリオ選択に有用であることが明らかになったので、本研究の成果は政策当局や金融機関にとっても有用である。

研究成果の概要(英文)：A wide range of research results, including improvements to VAR and DSGE models, modeling of asset price volatility fluctuations, response of asset price to macro news, and econometric theory of structural VAR models using large-scale data and structural changes in error variance was obtained. It is also shown that the predictive ability of macro variables is improved by making all the coefficients and error variances of the VAR model time-varying, and the volatility changing models constructed in this research are useful for the volatility prediction, Value-at-Risk and portfolio selection. These research results were published in 19 peer-reviewed academic journals and reported 112 times at academic conferences and workshops. In addition, an international workshop was held every year for three years.

研究分野：経済政策

キーワード：マクロ計量分析 経済予測 金融政策 財政政策 VAR DSGE 資産価格の高頻度データ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本経済は長期停滞への構造変化、金融危機や震災などの大規模なショックを経験し、そこからの脱却のために、日本銀行は様々な非伝統的金融政策を行ってきた。こうした構造変化、大規模なショック、非伝統的金融政策は従来のマクロモデルでは考慮されていないので、これらを考慮したより現実的なマクロモデルの構築は急務である。

マクロ計量分析によく用いられるモデルに多変量自己回帰 (VAR) モデルと動学的確率一般均衡 (DSGE) モデルがある。VAR モデルは複数の変数をそれらの過去の値の線形関数で表す時系列モデルであるのに対して、DSGE モデルは家計や企業の期待効用や期待利潤の動学的最適化に基づく理論モデルである。本研究では、これらのモデルをより現実的なモデルに改良することからスタートし、新たなマクロ計量モデルの構築を目指す。

2. 研究の目的

本研究では、経済の構造変化、金融危機や震災などの大規模なショック、非伝統的金融政策などを考慮した新たなマクロ計量モデルの構築とその推定法の開発を行う。このモデルを従来のマクロデータに予測のサーベイデータ、資産価格データ、地域・産業別データ、海外のデータなどを加えた大規模データや周期の異なるデータを用いて推定するための計量手法の開発も行う。その上で、マクロ経済予測に応用し、予測精度が改善するか実証分析を行う。

3. 研究の方法

VAR モデルに、時変モデル化、誤差分布の一般化、新たな識別制約の開発などの改良を行う。それと並行して、DSGE モデルにも、開放経済モデル化、時変モデル化、ショックの分布の一般化などの改良を行う。その上で、改良した VAR モデルと DSGE モデルを大規模データや周期の異なるデータを用いて推定できるように、ファクター・モデルや mixed data sampling (MIDAS) を用いて拡張する。さらに、改良・拡張したモデルを日本の大規模マクロ経済データに応用し、マクロ経済変数の予測や金融・財政政策の効果の実証分析を行う。

4. 研究成果

VAR モデルや DSGE モデルの改良、資産価格のボラティリティ変動のモデル化、資産価格のマクロニュースに対する反応、大規模データを用いた構造 VAR モデルや分散の構造変化の計量理論など、多岐に渡って研究成果が得られた。また、VAR モデルの係数と誤差分散をすべて時変にすることでマクロ変数の予測精度が高まることや、新たに構築した資産価格のボラティリティ変動を表すモデルは、ボラティリティの予測、Value-at-Risk、ポートフォリオ選択に有用であることを明らかにした。これらの研究成果は 19 本の査読付き学術誌に掲載され、学会等で 112 回の報告を行った。さらに、一橋大学社会科学高等研究院と共催で、3 年間毎年国際ワークショップを開催した。

VAR モデルの改良については、以下の成果が得られた。(1)VAR モデルの係数と誤差分散を時変にした時変 VAR モデルを世界景気指数、円の実質実効為替レート、日本の実質輸出の 3 変数に応用し、係数と誤差分散を両方時変にすることで、それらの 3 変数の予測精度が高まることを示した。(2)「外的操作変数を含む VAR」を応用し、公共投資がマクロ経済に及ぼす効果と世界における原油供給の変動が日本国内のガソリン価格に及ぼす影響を明らかにした。

DSGE モデルの改良でも以下の成果が得られた。(1)インフレターゲットへの外生的なショックが実質・名目為替レートに与える影響を 2 カ国開放経済ニューケインジアンモデルで分析した。このとき通常のニューケインジアンモデルでは説明困難な、データ上観察される実質・名目為替レートの大きな変動と高い持続性、および高い相関を動学的一般均衡で生成することが可能であることを示した。(2)経済成長理論と金融市場の摩擦を取り込んだ構造マクロモデルの構築と推定を行い、グレート・リセッションとそれに続く緩慢な経済成長の原因として、金融市場への負のショックが大きな役割を演じたという新たな推定結果を示した。

資産価格に関しても以下の研究成果が得られた。(1)日経 225 の高頻度データを用いて計算した分散リスクプレミアムが日本の将来の景気変動に対して予測力を持つことを明らかにした。(2)日中ボラティリティの周期性およびマクロ指標や日銀政策決定会合の結果公表などの影響を考慮した日中ボラティリティ変動モデルとその推定法を提案し、日経 225 株価指数の 5 分ごとのデータに応用した。その結果、日経 225 の日中ボラティリティは GDP、鉱工業生産指数、消費者物価指数といったマクロ経済指標の公表には反応せず、日銀政策決定会合の結果公表のみに反応することが明らかになった。また、このモデルによる日次ボラティリティの予測精度が高いことを示した。(3)多変量の株価収益率の分散や相関係数の変動を説明するモデルを構築した。

さらに高頻度データによって得られる実現ボラティリティ、実現相関係数を観測方程式に加えることで、ポートフォリオ選択のパフォーマンスが上がることを米国の株価収益率のデータを用いて示した。(4)Threshold Realized GARCH モデルとそのベイズ推定法を提案し、それを日米の株価指数に応用して Value-at-Risk の精度が高まることを示した。(5)5分刻みの高頻度データを用いて、為替レートのマクロ経済指標のニュースへの反応を測定し、リーマンショック後には円ドルレートの日本のニュースに対する反応が弱まっていることを明らかにした。

最後に、計量理論についても以下の研究成果が得られた。(1)大規模データを用いた構造 VAR の識別法および統計的推論について研究を行った。(2)線形回帰モデルの分散の構造変化について新たな分析手法を提案し、米国の GDP データを用いて 1980 年代半ばから続く大平穩期はリーマンショックを経ても終わっていないことを示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Akihisa Shibata, Mototsugu Shintani and Takayuki Tsuruga	4. 巻 92
2. 論文標題 Current account dynamics under information rigidity and imperfect capital mobility	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of International Money and Finance	6. 最初と最後の頁 153-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jimonfin.2018.12.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takashi Kano	4. 巻 53
2. 論文標題 Exchange rates and fundamentals: A general equilibrium exploration	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Money, Credit and Banking	6. 最初と最後の頁 95-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jmcb.12698	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Pierre Perron and Yohei Yamamoto	4. 巻 7
2. 論文標題 Pitfalls of two-step testing for changes in the error variance and coefficients of a linear regression model	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Econometrics	6. 最初と最後の頁 22-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/econometrics7020022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Yin-Wong Cheung, Rasmus Fatum and Yohei Yamamoto	4. 巻 95
2. 論文標題 The exchange rate effects of macro news after the global Financial Crisis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of International Money and Finance	6. 最初と最後の頁 424-443
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jimonfin.2018.03.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Cathy W.S. Chen and Toshiaki Watanabe	4. 巻 35
2. 論文標題 Bayesian modeling and forecasting of value-at-risk via threshold realized volatility	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Applied Stochastic Models in Business and Industry	6. 最初と最後の頁 747-765
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/asmb.2395	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yuta Kurose and Yasuhiro Omori	4. 巻 13
2. 論文標題 Multiple-block dynamic equicorrelations with realized measures, leverage and endogeneity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Econometrics and Statistics	6. 最初と最後の頁 46-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecosta.2018.03.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大森裕浩	4. 巻 48
2. 論文標題 多変量ボラティリティモデルのベイズ推定	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本統計学会誌』 シリーズJ	6. 最初と最後の頁 177-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Etsuro Shioji	4. 巻 52
2. 論文標題 Quantitative 'flooding' and bank lending: Evidence from 18 years of near-zero interest rate	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 107-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2019.01.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoon-Jin Lee, Ryo Okui and Mototsugu Shintani	4. 巻 204
2. 論文標題 Asymptotic inference for dynamic panel estimators of infinite order autoregressive processes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Econometrics	6. 最初と最後の頁 147-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jeconom.2017.04.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Atsushi Inoue and Mototsugu Shintani	4. 巻 9
2. 論文標題 Quasi-Bayesian model selection	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Quantitative Economics	6. 最初と最後の頁 1265-1297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3982/QE587	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Pablo A. Guerron-Quintana and Ryo Jinnai	4. 巻 10
2. 論文標題 Financial frictions, trends, and the great recession	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Quantitative Economics	6. 最初と最後の頁 735-773
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3982/QE702	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yohei Yamamoto	4. 巻 34
2. 論文標題 Bootstrap inference for impulse response functions in factor augmented vector autoregressions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Applied Econometrics	6. 最初と最後の頁 247-267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jae.2659	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Pierre Perron, Mototsugu Shintani and Tomoyoshi Yabu	4. 巻 79
2. 論文標題 Testing for flexible nonlinear trends with an integrated or stationary noise component	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oxford Bulletin of Economics and Statistics	6. 最初と最後の頁 822-850
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/obes.12169	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mototsugu Shintani and Zi-Yi Guo	4. 巻 37
2. 論文標題 Improving the finite sample performance of autoregression estimators in dynamic factor models: A bootstrap approach	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Econometric Reviews	6. 最初と最後の頁 360-379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/07474938.2015.1092825	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shinichiro Shirota, Yasuhiro Omori, Hedibert F. Lopes and Haixiang Piao	4. 巻 3
2. 論文標題 Cholesky realized stochastic volatility model	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Econometrics and Statistics	6. 最初と最後の頁 34-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecosta.2016.08.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Jouchi Nakajima, Tsuyoshi Kunihama and Yasuhiro Omori	4. 巻 44
2. 論文標題 Bayesian modeling of dynamic extreme values: Extension of generalized extreme value distributions with latent stochastic processes	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Applied Statistics	6. 最初と最後の頁 1248-1268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02664763.2016.1201796	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rasmus Fatum, Yohei Yamamoto and Guozhong Zhu	4. 巻 79
2. 論文標題 Is the Renminbi a safe haven?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of International Money and Finance	6. 最初と最後の頁 189-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jimonfin.2017.09.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中島上智、渡部敏明	4. 巻 68
2. 論文標題 時変多変量自己回帰モデルを用いた日本の輸出量の計量分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 237-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陣内了	4. 巻 68
2. 論文標題 景気循環理論と内生的成長理論との統合－研究動向と日本経済への適用可能性－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 289-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計112件 (うち招待講演 48件 / うち国際学会 84件)

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe and Jouchi Nakajima
2. 発表標題 Intraday range-based stochastic volatility models with application to the Japanese stock index
3. 学会等名 4th Eastern Asia Chapter Meeting on Bayesian Statistics (EAC-ISBA 2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe and Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency stochastic volatility models
3. 学会等名 HSI2019-5th Hitotsubashi Summer Institute "Macro- and Financial Econometrics" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡部敏明・中島上智
2. 発表標題 High-frequency stochastic volatility models
3. 学会等名 2019年度関西計量経済学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naoki Awaya and Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Particle rolling MCMC
3. 学会等名 28th South Taiwan Statistics Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoki Awaya and Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Particle learning for stochastic volatility with leverage
3. 学会等名 4th Eastern Asia Chapter Meeting on Bayesian Statistics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuta Yamauchi and Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Multivariate stochastic volatility model with realized volatilities and pairwise realized correlations
3. 学会等名 HSI2019-5th Hitotsubashi Summer Institute "Macro- and Financial Econometrics" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋慎・大森裕浩・渡部敏明
2. 発表標題 Realized stochastic volatility with skewed t distribution
3. 学会等名 ベイズ計量経済学研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuta Yamauchi and Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Factor multivariate realized stochastic volatility model
3. 学会等名 13th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Infrastructure investment news and business cycles: Evidence from the VAR with external instruments
3. 学会等名 Korea University Seminar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Pass-through of oil supply shocks to domestic gasoline prices: Evidence from daily data
3. 学会等名 2019 Workshop on Energy Economics: Econometric Analysis of Energy Demand and Climate Change (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Pass-through of oil supply shocks to domestic gasoline prices: Evidence from daily data
3. 学会等名 15th International Symposium on Econometric Theory and Applications (SETA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Fiscal confidence shocks and the market for the Japanese government bonds
3. 学会等名 International Conference on Public Economic Theory, 2019 (PET2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Pass-through of oil supply shocks to domestic gasoline prices: Evidence from daily data
3. 学会等名 Asia Pacific Economic Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Pass-through of oil supply shocks to domestic gasoline prices: Evidence from daily data
3. 学会等名 HSI2019-5th Hitotsubashi Summer Institute "Macro- and Financial Econometrics" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Infrastructure investment news and business cycles: Evidence from the VAR with external instruments
3. 学会等名 72nd European Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Response of lending to the Bank of Japan's quantitative and qualitative easing policy: Evidence from a panel data of regional banks
3. 学会等名 Seoul Journal of Economics International Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Pass-through of oil supply shocks to domestic gasoline prices: Evidence from daily data
3. 学会等名 13th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 How policies are perceived in the market for the Japanese government bonds: Evidence from volatility smiles
3. 学会等名 FFJ-BANQUE DE FRANCE WORKSHOP: Macroeconomics and Monetary Policy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Ryo Kinoshita and Kosuke Oya
2. 発表標題 Frequency-wise causality analysis in infinite order vector autoregressive processes
3. 学会等名 Workshop on Recent Progress in Time Series: in honour of Peter Robinson (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Ryo Kinoshita and Kosuke Oya
2. 発表標題 Frequency-wise causality analysis in infinite order vector autoregressive processes
3. 学会等名 2019 Asian Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Keiichi Goshima and Hiroshi Ishijima
2. 発表標題 News implied uncertainty and aggregate economic activity: Evidence from the Japanese government bond market
3. 学会等名 3rd International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新谷元嗣・五島圭一・石島博・山本弘樹
2. 発表標題 Forecasting Japanese inflation with a news-based leading indicator of economic activities
3. 学会等名 2019年度 Summer Workshop on Economic Theory
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Keiichi Goshima, Hiroshi Ishijima and Hiroki Yamamoto
2. 発表標題 Forecasting Japanese inflation with a news-based leading indicator of economic activities
3. 学会等名 2019 CUR Microeconometrics: Survey Methodology and Data Science (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新谷元嗣・五島圭一・石島博・山本弘樹
2. 発表標題 Forecasting Japanese inflation with a news-based leading indicator of economic activities
3. 学会等名 日本経済学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kano and Kazuko Kano
2. 発表標題 Searching for currency regime effects on real exchange rate adjustments: 1972 Okinawa reversion
3. 学会等名 Canadian Economic Association Meetings (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kano and Kazuko Kano
2. 発表標題 Searching for currency regime effects on real exchange rate adjustments: 1972 Okinawa reversion
3. 学会等名 North American Summer Meetings of Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kano and Kazuko Kano
2. 発表標題 Searching for currency regime effects on real exchange rate adjustments: 1972 Okinawa reversion
3. 学会等名 European Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 On posterior inferences of misspecified DSGE models: The minimal econometric interpretation
3. 学会等名 HSI2019-5th Hitotsubashi Summer Institute "Macro- and Financial Econometrics" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 On posterior inferences of misspecified DSGE models: The minimal econometric interpretation
3. 学会等名 13th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto and Tetsushi Horie
2. 発表標題 Testing for speculative bubbles in large-dimensional financial panel data sets
3. 学会等名 Nanyang Econometrics Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Pierre Perron, Yohei Yamamoto and Jing Zhou
2. 発表標題 Testing jointly for structural changes in the error variance and coefficients of a linear regression model
3. 学会等名 東北大学応用統計計量ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Pierre Perron and Yohei Yamamoto
2. 発表標題 The great moderation: Updated evidence with joint tests for multiple structural changes in variance and persistence
3. 学会等名 マクロ経済学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Pierre Perron, Yohei Yamamoto and Jing Zhou
2. 発表標題 Testing jointly for structural changes in the error variance and coefficients of a linear regression model
3. 学会等名 Economics Seminar, National Taipei University, Taiwan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto
2. 発表標題 Identifying factor-augmented vector autoregression models via changes in shock variances
3. 学会等名 Helsinki Graduate School of Economics Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Pierre Perron, Yohei Yamamoto and Jing Zhou
2. 発表標題 Testing jointly for structural changes in the error variance and coefficients of a linear regression model
3. 学会等名 NBER-NSF Time Series Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Pierre Perron, Yohei Yamamoto and Jing Zhou
2. 発表標題 Testing jointly for structural changes in the error variance and coefficients of a linear regression model
3. 学会等名 HSI2019-5th Hitotsubashi Summer Institute "Macro- and Financial Econometrics" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto and Tetsushi Horie
2. 発表標題 Testing for speculative bubbles in large-dimensional financial panel data sets
3. 学会等名 15th International Symposium on Econometric Theory and Applications (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economic growth
3. 学会等名 Expectation, Financial Markets, and the Macroeconomy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economic growth
3. 学会等名 Midwest Macro Meeting (Fall 2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economic growth
3. 学会等名 Faculty Workshop, University of London (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe
2. 発表標題 Bayesian analysis of time-varying heterogeneous autoregressive models
3. 学会等名 2018 International Society for Bayesian Analysis (ISBA) World Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe and Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency stochastic volatility models for the Japanese stock index
3. 学会等名 12th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2018) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡部敏明・中島上智
2. 発表標題 High-frequency stochastic volatility models for the Japanese stock index
3. 学会等名 ベイズ計量経済分析研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe and Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency stochastic volatility models for the Japanese stock index
3. 学会等名 International Workshop on "One Belt & One Road" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe and Jouchi Nakajima
2. 発表標題 Intraday range-based stochastic volatility models with application to the Japanese stock index
3. 学会等名 3rd International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大森裕浩
2. 発表標題 MCMCと状態空間モデル
3. 学会等名 統計サマーセミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Omori and Nao Awaya
2. 発表標題 Particle rolling MCMC with double block sampling: Conditional SMC update approach
3. 学会等名 Bayesian Computation for High-Dimensional Statistical Models（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大森裕浩
2. 発表標題 多変量ポラティリティモデルのベイズ推定
3. 学会等名 2018年度 統計関連学会連合大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Omori and Nao Awaya
2. 発表標題 Particle rolling MCMC
3. 学会等名 12th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2018)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大森裕浩・山内雄太
2. 発表標題 Multivariate realized stochastic volatility with dynamic pairwise correlations
3. 学会等名 科研プロジェクト「経済統計・政府統計の理論と応用からの提言」研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 Quantitative 'flooding' and bank lending: Evidence from 18 years of near-zero interest rate
3. 学会等名 金融班月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 Fiscal confidence shocks and the market for the Japanese government bonds
3. 学会等名 日本金融学会2018年度春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Fiscal confidence shocks and the market for the Japanese government bonds
3. 学会等名 HSI2019-5th Hitotsubashi Summer Institute "Macro- and Financial Econometrics" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Infrastructure investment news and business cycles: Evidence from the VAR with external instruments
3. 学会等名 Summer Workshop on Economic Theory (SWET) 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 Fiscal confidence shocks and the market for the Japanese government bonds
3. 学会等名 日本経済学会2018年度秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 財政赤字への不安感は本当にはないのか？ - 国債先物オプションデータの検証
3. 学会等名 科研費・研究集会「アベノミクスは長期低迷を克服したのか？」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 Fiscal confidence shocks and the market for the Japanese government bonds
3. 学会等名 公共選択学会第22回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Infrastructure investment news and business Cycles: Evidence from the VAR with external instruments
3. 学会等名 12th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2018) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 失われた20年で日本企業は変わってしまったのか なぜキャッシュをため込むのか、設備投資はどこに向かうのか
3. 学会等名 ESRI経済政策フォーラム - 企業が直面する不確実性と設備投資・企業行動 - (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Pass-through of oil supply Shocks to domestic gasoline prices: Evidence from daily data
3. 学会等名 2019 Workshop on Energy Economics: Econometric Analysis of Energy Demand and Climate Change (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Pass-through of oil supply shocks to domestic gasoline prices: Evidence from daily data
3. 学会等名 15th International Symposium on Econometric Theory and Applications (SETA2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Pierre Perron and Tomoyoshi Yabu
2. 発表標題 On trigonometric trend regressions of unknown frequencies in the presence of autoregressive errors
3. 学会等名 HSI2019-5th Hitotsubashi Summer Institute "Macro- and Financial Econometrics" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Yuto Iwasaki and Ichiro Muto
2. 発表標題 Missing wage inflation? estimating the natural rate of unemployment in a nonlinear DSGE model
3. 学会等名 2018 Midwest Macroeconomics Meetings (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Ryo Kinoshita and Kosuke Oya
2. 発表標題 Frequency-wise causality analysis in infinite order vector autoregressive processes
3. 学会等名 12th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2018) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新谷元嗣・木下亮・大屋幸輔
2. 発表標題 Frequency-wise causality analysis in infinite order vector autoregressive Processes
3. 学会等名 第26回関西計量経済学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Keiichi Goshima, Hiroshi Ishijima and Hiroki Yamamoto
2. 発表標題 Forecasting Japanese inflation with a news-based leading indicator of economic activities
3. 学会等名 27th Symposium of the Society for Nonlinear Dynamics and Econometrics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 Trend inflation and exchange rate dynamics: A new Keynesian approach
3. 学会等名 52nd Annual Conference of the Canadian Economic Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 Trend inflation and exchange rate dynamics: A new Keynesian approach
3. 学会等名 International Conference on Economic Modeling (EcoMod2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 Trend inflation and exchange rate dynamics: A new Keynesian approach
3. 学会等名 71st European Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economic growth
3. 学会等名 CIGS Conference on Macroeconomic Theory and Policy 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economic growth
3. 学会等名 China International Conference in Macroeconomics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economic growth
3. 学会等名 Expectations in Dynamic Macroeconomic Models (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Pablo Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economic growth
3. 学会等名 23rd Annual Latin American and Caribbean Economic Association (LACEA) Meeting 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto
2. 発表標題 Identifying factor-augmented vector autoregression models via changes in shock variances
3. 学会等名 5th International Association for Applied Econometrics (IAAE) Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto
2. 発表標題 Identifying factor-augmented vector autoregression models via changes in shock variances
3. 学会等名 28th Annual Meeting of the Midwest Econometrics Group (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto
2. 発表標題 Identifying factor-augmented vector autoregression models via changes in shock variances
3. 学会等名 12th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2018) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe
2. 発表標題 Predictability of excess bond premium and variance risk premium for business cycles and recession risk
3. 学会等名 11th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2017) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡部敏明
2. 発表標題 Predictability of excess bond premium and variance risk premium for business cycles and recession risk
3. 学会等名 一橋大学経済研究所共同利用・共同研究拠点プロジェクト研究集会「高頻度データを用いた資産価格の計量分析」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe
2. 発表標題 Predictability of excess bond premium and variance risk premium for business cycles and recession risk
3. 学会等名 Workshop “Financial/Economic Analytics” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 Extracting fiscal policy expectations from a cross section of daily stock returns
3. 学会等名 2017年度日本経済学会春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Extracting fiscal policy expectations from a cross section of daily stock returns
3. 学会等名 4th Conference of International Association for Applied Econometrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Extracting fiscal policy expectations from a cross section of daily stock returns
3. 学会等名 APEA (Asia-Pacific Economic Association) 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 量的・質的金融緩和期における日本の信用創造
3. 学会等名 SWET (Summer Workshop on Economic Theory) 2017 マクロ金融
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 Money creation under the quantitative and qualitative easing policy: Evidence from a panel data of Japanese banks
3. 学会等名 2017年度日本経済学会秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 量的・質的金融緩和期における日本の信用創造
3. 学会等名 2017年度日本金融学会秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Fiscal confidence shocks and the market for the Japanese government bonds
3. 学会等名 HIAS, IER and AJRC Joint Workshop “Frontiers in Macroeconomics and Macroeconometrics” (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Fiscal confidence shocks and the market for the Japanese government bonds
3. 学会等名 11th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2017) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 Exchange rates and fundamentals: A general equilibrium exploration
3. 学会等名 HIAS, IER and AJRC Joint Workshop “Frontiers in Macroeconomics and Macroeconometrics” (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加納隆
2. 発表標題 実質為替レートと通貨体制：1972年沖縄返還からの示唆
3. 学会等名 日本経済学会秋季大会特別報告 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 Trend inflation and exchange rate dynamics: a new Keynesian approach
3. 学会等名 2017 Workshop of the Australasian Macroeconomics Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 Trend inflation and exchange rate dynamics: a new Keynesian approach
3. 学会等名 23rd International Conference of the Society for Computational Economics (CEF 2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 Trend inflation and exchange rate dynamics: a new Keynesian approach
3. 学会等名 3rd International Workshop on Financial Markets and Nonlinear Dynamics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto and Tetsushi Horie
2. 発表標題 Testing for speculative bubbles in large-dimensional financial panel data sets
3. 学会等名 Workshop on Macroeconomic and Financial Time Series Analysis (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto
2. 発表標題 Bootstrap inference for impulse response functions in factor-augmented vector autoregressions
3. 学会等名 4th Conference of International Association for Applied Econometrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto
2. 発表標題 Bootstrap inference for impulse response functions in factor-augmented vector autoregressions
3. 学会等名 Workshop on Advances in Econometrics 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yin-Wong Cheung, Rasmus Fatum and Yohei Yamamoto
2. 発表標題 The exchange rate effects of macro news after the global financial crisis
3. 学会等名 一橋大学経済研究所共同利用・共同研究拠点プロジェクト研究集会「高頻度データを用いた資産価格の計量分析」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Pierre Perron and Tomoyoshi Yabu
2. 発表標題 On trigonometric trend regressions of unknown frequencies in the presence of autoregressive errors
3. 学会等名 2017 Asian Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani
2. 発表標題 Instrumental variables estimators for infinite order panel autoregressive processes
3. 学会等名 2017 China Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yasufumi Gemma, Takushi Kurozumi and Mototsugu Shintani
2. 発表標題 Trend inflation and evolving inflation dynamics: A Bayesian GMM analysis of the generalized new Keynesian Phillips curve
3. 学会等名 4th Conference of International Association for Applied Econometrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toshihiko Mukoyama, Mototsugu Shintani and Kazuhiro Teramoto
2. 発表標題 Evaluating the role of part-time workers in an estimated new Keynesian model with search frictions
3. 学会等名 HIAS, IER and AJRC Joint Workshop “Frontiers in Macroeconomics and Macroeconometrics” (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toshihiko Mukoyama, Mototsugu Shintani and Kazuhiro Teramoto
2. 発表標題 Evaluating the role of part-time workers in an estimated new Keynesian model with search frictions
3. 学会等名 The 11th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2017) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yasuhiro Omori and Yuta Yamauchi
2. 発表標題 Multivariate realized stochastic volatility with dynamic pairwise correlations
3. 学会等名 1st International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta2017) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大森裕浩・山内雄太
2. 発表標題 Multivariate realized stochastic volatility with dynamic pairwise correlations
3. 学会等名 2018年度統計関連学会連合大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Makoto Takahashi, Yasuhiro Omori and Toshiaki Watanabe
2. 発表標題 Realized stochastic volatility with skewed t distribution
3. 学会等名 Workshop "Financial/Economic Analytics" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles, economic fluctuations, and growth
3. 学会等名 Macro-Finance Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles, economic fluctuations, and growth
3. 学会等名 2017 China Meeting of the Econometric Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles, economic fluctuations, and growth
3. 学会等名 HIAS, IER and AJRC Joint Workshop "Frontiers in Macroeconomics and Macroeconometrics" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles, economic fluctuations, and growth
3. 学会等名 東京大学金融教育研究センター・日本銀行調査統計局 第7回共催 コンファレンス (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles, economic fluctuations, and growth
3. 学会等名 Hitotsubashi-RIETI International Workshop on Real Estate and the Macro Economy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles, economic fluctuations, and growth
3. 学会等名 若手経済学者のためのマクロ経済学コンファレンス(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles, economic Fluctuations, and growth
3. 学会等名 Pan Pacific Conference in Economic Research(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano and Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles, economic fluctuations, and growth
3. 学会等名 RIETI international workshop; long-term growth and secular stagnation(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 新谷元嗣・西山慶彦・川口大司・奥井亮	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 744
3. 書名 計量経済学	

1. 著者名 宇井貴志・加納隆・原千秋・渡部敏明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 248
3. 書名 現代経済学の潮流2019	

1. 著者名 宇井貴志・加納隆・土居潤子・西山慶彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 164
3. 書名 現代経済学の潮流2020	

1. 著者名 玄田 有史（塩路悦朗 第10章「国際競争がサービス業の賃金を抑えたのか」担当）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか	

1. 著者名 福田 慎一（塩路悦朗 第7章「銀行行動と貨幣乗数の低下-量的緩和政策は貸出を拡大したか-」担当）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 266
3. 書名 金融システムの制度設計	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新谷 元嗣 (SHINTANI Mototsugu) (00252718)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授 (12601)	
研究分担者	塩路 悦朗 (SHIOJI Etsuro) (50301180)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	陣内 了 (JINNAI Ryo) (50765617)	一橋大学・経済研究所・准教授 (12613)	
研究分担者	大森 裕浩 (OMORI Yasuhiro) (60251188)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授 (12601)	
研究分担者	山本 庸平 (YAMAMOTO Yohei) (80633916)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	加納 隆 (KANO Takashi) (90456179)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授 (12613)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 HSI2019-5th Hitotsubashi Summer Institute “Macro- and Financial Econometrics”	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 HSI2018-4th Hitotsubashi Summer Institute “Macroeconomics and Macroeconometrics”	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 HIAS, IER and AJRC Joint Workshop “Frontiers in Macroeconomics and Macroeconometrics”	開催年 2017年～2017年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
カナダ	アルバータ大学			
米国	ボストン大学	ボストンカレッジ	ペンシルバニア大学	
ニュージーランド	マッセ 大学			
英国	ロンドン大学			
その他の国・地域	台湾逢甲大学			